

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	○どの子も分かる授業（ユニバーサルデザイン）	中間評価	○視覚化、焦点化、個別の指導を意識した指導が多くなってきた。	最終評価
		○協働的な学び（対話重視）		○相手の意見に耳を傾け受け止める姿が多くなった。	
環境作り		○支持的風土（認め合い、支え合い、高め合う集団）を形成し、自己発揮できる環境。			

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課題（10月）	改善のための取組（10月）	最終評価（2月）
1	国語	学 話のまとまりや言葉のひびきなどに気を付けて音読している。漢字学習やカタカナ学習に興味をもって取り組んでいる。	○話し方、聞き方に関する基本的な知識・技能を身に付ける。 ○長音、拗音、促音などの表記や「は」「へ」「を」を文中で適切に使う。	○話型を意識させ、口形をしっかりと開け、相手に聞こえる声で話すこと・話す人に体を向けて目と耳と心で聞くことを日常的に指導していく。 ○授業での文作り、日記、連絡帳の記入を通して、言葉のつなぎ方を知り、文章を書く活動に慣れさせていく。	
	算数	学 繰り上がりや繰り下がりのない加減法の計算練習を繰り返すことで計算力を付けている。具体的な操作する活動を通して、自分で考え解決しようとしている。	○加減法の練習を通して、数の合成、分解についての概念形成を確立する。 ○文章問題で式を正しく立てられるようにする。	○具体物や半具体物を操作しながら、考える場面をより多く取り入れ、数や量についての感覚を養う。 ○文章問題では手掛かりとなる言葉に線を引いたり、図を描いたりして立式できるようにする。	
学年	教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月） → 最終評価（2月）
2	国語	学 ノートやプリントの書かれた状況を見ると、7割の児童は「てにをは」や拗音、撥音の表記が適切だが、誤りがある児童がまだ3割程度いる。 学 新出漢字の画数が多く、誤りが多い。	○「話すこと聞くこと」については、日直等の活動や普段の授業の中で行っているが、聞こえる声ではっきり話す、聞く人に注意を向ける。 ○「書くこと」については、順序や内容をよく考えて書く。	○1学期は、話すポイント、聞くポイントを繰り返し伝え、定着を図る。 ○1学期は、正しい言葉の表記を身につけるよう、ノート指導や作文指導等で確認をしていく。手本を示しながら書く内容を考えさせ、指導していく。	○話をしているポイント（順序、詳しく説明する所等）をしっかりと指導してから学習を行う。 ○聞く姿勢を徹底していく。 ○「書くこと」単元において、構成メモからまとまりのある文章を書く練習を繰り返し行い、基礎・基本を身に付ける。
	算数	学 ノートの書き方については、定着しているが、自分の考えや図や言葉で説明することが難しい児童もいる。 学 数量感覚が乏しく、繰り上がり繰り下がりの計算や、時計の読み方が難しい児童が数名いる。	○図や絵で自分の考えを説明できるようにしていく。	○1学期は、タイル図、絵の書き方を復習しながら自分の考えを表現できるようにする。 ○1学期は、繰り返しの計算練習を行っていく。	○ノートに自分の考えを後から見やすい字や図で表現できるよう指導する。 ○新しい単元に入っても、復習として計算練習を行っていく。
3	国語	調 「読むこと」については平均より20ポイント近く低い。 調 「話すこと・聞くこと」については、正答率が区の平均よりやや低い。 学 読書が好きな児童が多い、漢字を書くことや読むことを好きな児童が多い。	○人物の心情を想像しながら物語文を読む。 ○大事なことを落とさないように静かに聞く。	○個人の読み取りの時間を確保する。発表場面では相互交流をする機会を設け、さらにノートなどに記述する。 ○話し方の「かきくけこ」・聞き方の「あいうえお」掲示をし、意識させる。	○ノート指導だけでなく、ワークシート等も用いて、読み取ったことをペアやトリオなどで話してから、全体交流を行う。 ○ICTを用いて、場面絵を写し、読み取りを深めるための手段とする。
	算数	調 計算の技能は定着している児童が多いが、水の量、長さなどの量感を問う問題は、正答率が区の平均よりやや低い。 学 自分の考えを表現することに苦手意識があり、さらに表現方法についても課題が見られる。	○暗記が中心になっており、量感を伴った理解ができるようにする。 ○多様な方法で考えを表現し、説明できる力を身に付ける。	○実際に図ったり、比べたりして、児童が量感を実感できる算数的活動の時間を増やす。 ○友達のことを読み取ったり、自分の考えに取り入れたりできるよう、交流する場面を充実させる。	○児童の興味が持続し、主体的に学べるようにICTなどを用いて導入場面の工夫を行う。 ○図に書いたことをペアやトリオなどで説明し合い、思考を深める。 ○引き続き東京ベーシック・ドリルを用いて、基礎学力の定着を図る。
4	国語	調 どの分野も区の平均点数を上回っているが、国語辞典の使い方や「書く力」が平均をやや下回っている。 学 物語文などの「読む力」を高める必要がある。	○書く活動を多く取り入れる。 ○語彙、想像力など豊かに表現する力を高める。 ○漢字の習熟を徹底する。	○教科書の「書くこと」の単元を徹底指導し、身に付けさせる。 ○年間指導計画を見直し、学期に2～3回は意図的に書く活動を入れる。 ○成長ノートや日記を通し、毎週書くことを継続し、書き慣れることを目指す。 ○一人の読み、全体交流など様々な読む活動を取り入れる。 ○児童による関連図書紹介や読書カードの活用を通し、主体的な読書活動に取り組ませる。 ○小テスト、宿題で基礎学力の定着を目指す。	○日記等の取組を通して、書くことへの苦手意識少なくなってきた。段落同士のつながりを意識させて作文に取り組むようにする。 ○全体交流する際に友達の読み取り方・感じ方などもノートやワークシート等に記入させる。 ○読書カードは発表・掲示を通して、読書活動を広める。 ○詩の暗唱や教科書の音読に朝学習等の時間を活用して、繰り返し取り組む。 ○宿題、漢字小テストで習熟を図ることができるようになってきた。

	算数	<p>調 どの分野も区の平均点数を上回っているが、倍の問題、式と図の照合などが平均をやや下回っている</p> <p>学 立式や計算ミスが目立つので、このつまずきに応じた指導が必要である。</p>	<p>○数量関係をつかめるようにする。</p> <p>○先取り学習をし、答えだけを求める傾向が見られるので、解決の過程を大切にすることを付ける。</p> <p>○ひき算、かけ算といった基本的な計算を丁寧にできるようにする。</p>	<p>○基準量、比較量を数直線で表し、数量関係をつかみ、立式できるようにする。</p> <p>○週に数回、技能スキルを高める活動を取り入れる。</p> <p>○自力解決時に様々な表現方法で解決させる。またノートに友達の考えを書かせる。</p> <p>○東京ベーシック・ドリル、100マス計算、宿題等で基礎学力の定着を図る。</p>	<p>○数直線を書かせることで数量関係をとらえやすくなってきた。今後は求めるものを明確にし、立式させる。</p> <p>○ワークテスト等で計算問題の正答率が上がっている。朝学習や授業開始時に今後も意図的に基礎的な計算に集中して取り組む。</p> <p>○自力解決時に複数の解決方法で表現することが身につけてきた。今後も全体交流時に式から図、図から式など様々な表現方法を扱い、相互の関連が図れるようにする。</p> <p>○東京ベーシック・ドリルは定着を確認しながら、今後も継続して取り組ませる。</p>
5	国語	<p>調 「読むこと」については、正答率が全国平均より11ポイント以上高い。</p> <p>学 読書が好きな児童が多い。物語文などの読解力は高い。書く力をさらに高める必要がある。</p>	<p>○「話すこと・聞くこと」では、自分が伝えたい内容、押さえてたい内容が伝わるように簡潔に話したり、詳しく話したりする工夫をする。大切な部分を落とさないように聞く。</p> <p>○「書くこと」では、書く内容を明確にし、伝えたいことが相手に伝わるようにまとまりを考えて文章の構成を考える。</p>	<p>○一人読み、群読など様々な音読の仕方を経験させる。</p> <p>○国語科以外でも、「話す・聞く」場面を意図的に設ける。</p> <p>○手本となる児童の「よい話し方・聞き方」を全体で共有しながら意識させる。</p> <p>○「成長ノート」等を通し、自分の考えや気持ちを整理しながら書く習慣を身に付けさせる。</p>	<p>○国語科を中心に、意図的に「話す・聞く」場面を意図的に設けたことで、話合いのスキルが高まった。</p> <p>○1対1の交流では、自分の考えをしっかりと伝えられるようになってきた。</p> <p>○「成長ノート」の取り組みにより、自分の考えに対して必ず理由付けをして書き表せるようになった。</p>
	算数	<p>調 「数と計算」の正答率が、区・全国の平均を共に下回っていた。観点別では、数量や図形についての知識・理解が他に比べて低い。</p> <p>学 理解に時間を要す児童がいる。</p>	<p>○数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や表し方を捉えられるようにする。</p> <p>○1時間の学習内容をしっかり理解し、わからない内容は積極的に質問できるようにする。</p>	<p>○東京ベーシック・ドリルを活用し基礎・基本の定着を図る。</p> <p>○家庭学習で、既習内容の反復練習を行う。</p> <p>○教え合いをさせることで全体の理解力を上げる。</p> <p>○授業前に意図的に、5分間「数と計算タイム」を設け、既習内容を定着させる。</p> <p>○毎時間のねらいを明確に知らせる。</p>	<p>○東京ベーシック・ドリルと授業前の5分間「数と計算タイム」により、既習内容の定着につながっている。</p> <p>○教え合いにより、理解の早い児童は分かりやすく説明する力を高め、理解が遅い児童は学習内容の理解を深めることにつながっている。</p>
6	国語	<p>調 どの観点においても目標値および全国平均を上回っているが、活用の「表現力」が自治体平均を4ポイント下回っている。</p> <p>学 読むことへの意欲の高い児童は多い。</p> <p>学 感じたことや考えを文章にすることに苦手意識をもっている児童や、語彙をもっと豊かにしたい児童がいる。</p>	<p>○「書くこと」では、自分の考えを明確にし、相手に伝わるように文章の構成を考えたり、表現を工夫したりする。</p> <p>○「話すこと・聞くこと」では、相手を意識して、自分の考えが伝わるように言葉を選んで話す。大切な部分を落とさずに聞き、聞いたことに対して自分の考えをもつ。</p>	<p>○国語に限らず、どの教科においても学習感想として自分の気付きや考えを書くことで、自分の考えを文章で表現する力を身に付けさせる。</p> <p>○聞き方に重点を置き、また、目的や相手を意識して話すことを徹底することで、安心して話ができる学級づくりをする。</p> <p>○朝の会や帰りの会、学級活動においても「話す・聞く」活動を設定し、どの児童もその経験を積み重ねられるようにする。</p>	<p>○資料や図を用いながら自分の考えを整理して書く力が付いてきた。</p> <p>○気持ちや様子を表す文章表現がより豊かになるように、自分の言葉で書くことを継続する。</p> <p>○国語と学級活動で「話す・聞く」場面を設けたことで、どの児童も話す経験を積み、安心して話ができる関係を築いている。</p>
	算数	<p>調 「基礎」「活用」共に自治体平均および全国平均を上回っているが、「図形」が全国平均を下回っており、中でも「合同」のポイントが低い。</p> <p>学 既習事項の定着度に個人差があり、その差が非常に大きい。</p>	<p>○課題解決の過程を重視し、丁寧に正確に取り組む習慣を身に付ける。</p> <p>○全ての児童が一単位時間の学習内容を十分に理解し、既習事項を活用する。</p>	<p>○考え方を交流することに重きをおき、多様な考えに気付かせる。</p> <p>○三展開それぞれの児童の実態に合わせて、既習事項の復習を行う。</p> <p>○東京ベーシック・ドリルを活用し基礎・基本の定着を図る。</p>	<p>○考え方の交流を継続することによって、問題を多面的に見られることが増えてきた。</p> <p>○定着度の個人差があるため、習熟の実態に合わせた復習を継続して行う。</p> <p>○東京ベーシック・ドリルを復習に活用することにより、基礎・基本が身に付いてきた。今後も活用していく。</p>
音楽	<p>学 意識をして「聴くこと」については、少しずつできるようになってきているが、感じたことを工夫して表現することに課題がある。</p> <p>学 音楽の基礎的な力が身につけている児童は多いが、もっと高めたい。</p>	<p>○「聴く」ことの大切さを学び、意識をして聴き、自分が表現するときに生かすことができるようにする。</p>	<p>○範唱や範奏を聴き、リズムや旋律を演奏するだけでなく、楽曲のよさや演奏の優れているところを感じ取り、表現に生かすことができるようにする。</p> <p>○歌詞の意味を考えさせることを大切にすることで、表現に生かすようにする。</p>	<p>○楽曲を聴いて感じ取り、自分の演奏に生かそうとしている児童が多く見られる。</p> <p>○歌詞の意味を考え、思いをもって歌うことを繰り返して行うことにより、時には歌声に表現が生かせるようになってきた。今後も継続して指導を行う。</p>	
図工	<p>学 図画工作科の授業や作ることに描くことに対する意欲は高く、意欲的に取り組む。その一方で、学年や発達段階に応じた道具の使い方や技能をさらに身に付けるようにしたい。また、テーマに合わせて発想力を発揮し豊かなイメージを広げる力を高める必要がある。</p>	<p>○のこぎりや彫刻刀、くぎ打ち等安全指導が必要な道具について経験を積み、思い通りに使えるようにする。</p> <p>○自分のアイデアやイメージに自信を持ち、豊かに楽しんで表現できるようにする。</p>	<p>○いろいろな道具や材料を扱う経験を保障し、安全指導とともに身に付くまで繰り返し題材に取り組む。</p> <p>○イメージを広げるきっかけとなるテーマ設定を精選し、魅力的な導入や子に応じた声かけを行い、児童の想像力を育てる授業を行う。</p>	<p>○初めて扱う時だけでなく毎回の授業で安全な使い方について板書に明示し確認することで、確実に道具の使い方を習得させる。</p> <p>○テーマに合わせてイメージを拡げられる児童が増えてきているので、さらにテーマを絞り込んだ題材も経験させる。</p>	

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況